

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393100074		
法人名	学校法人 さくら学園		
事業所名	グループホームじけい(朝日)		
所在地	安城市西別所町中新田20		
自己評価作成日	令和4年1月30日	評価結果市町村受理日	令和4年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2393100074-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域で共に暮らす事の出来る環境づくり
隣接する幼稚園児、保育園児や、近隣住民とのふれあい交流が深められるようにしている
地域の祭りや、発表会に積極的に参加している
家族との交流も積極的
積極的に外出の機会を設けている(コロナの為感染予防に努めながら状況に応じて)
医療機関との連携を密にし健康管理をしている
家庭的な雰囲気を目指し実践している
行事、外出が多い(コロナの為減っている)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、感染症の状況をみながら家族や地域の方との交流を継続しており、関係が途切れないような取り組みが行われている。毎月の家族との大掃除を通じた交流や地域の方とのサロンの取り組み等、感染症対策を行いながら行事を継続する取り組みが行われている。運営推進会議についても感染症の状況をみながら開催する取り組みが行われており、地域の方、市担当部署、地域包括支援センター等との交流の機会につなげている。利用者に関する支援についても、職員間で利用者一人ひとりができることを検討しながら、利用者がホームでの生活が前向きになるような支援が行われている。また、協力医や看護師との医療面での連携を深めながら、利用者様健康状態に合わせた支援も行われており、身体状態の重い方もホームでの生活を継続することができるような支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に慈愛、誠心、共生という理念を掲げていつでも目に付く様にしている 特に共生においては入居者、職員、ご家族、地域の方、皆で共に生きて行く様に協力し合っている 地域で共に生き、暮らす事が出来る環境を目指している(ソーシャルディスタンスに配慮しつつ) 町内の掃除、お祭りなどの行事に積極的に参加している。 グループホームの行事にも地域の方をお呼びし、参加して頂いている 地域の方がじけいの避難訓練に参加して下さる等交流が出来ている どんな小さなことでも声掛けや協力をしあえているとおもう 幼稚園、保育園とも交流がある(最近はコロナの状況を見ながら出来る時に行っている)	運営法人の基本理念にホーム独自の「共生(ともいき)」を加えており、利用者、家族、職員がホームで一緒に暮らしていくことを目指した内容の理念を掲げている。職員間で利用者への支援を通じて理念の共有に取り組んでいる。また、運営推進会議等を通じて、管理者からも家族に理念に関する説明が行われており、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り、サロン、毎月の神社掃除、クラブ活動、芸能発表大会へ積極的に参加(今年はコロナの為に中止になった) じけいで開催される毎月の喫茶や行事にご近所様が沢山参加してみえる(ソーシャルディスタンスに配慮しつつ) 地域の方がボランティアで歌や踊りを披露して下さる 避難訓練に地域の方が参加し、より良くなるようにご意見を下さる、会議を行っている 地域の方が珍しい花が咲いたと(月下美人など)持って来て下さったりする/果物や野菜も頂いたりする クリスマスには地域の方がケーキを寄付して下さる ご家族との大掃除、食事会、また、地域に開かれた毎月の喫茶、町内行事参加、町内の方と一緒に避難訓練などで交流を深めている 入居しても、今までのご近所の方との関りを大切にしている 芋掘りで取れた芋を地域の方に配ったりしている 組の評議員会に参加している ラジオ体操の参加 年賀状を出している	現状の感染症問題が続いていることもあり、地域の方との交流が困難になっているが、感染症の状況をみながら交流を再開する等、現状で可能な取り組みが行われている。例年については、利用者と踊りの披露を行うために地域の公民館を借りて練習する取り組みが行われている。また、日常的にも関連の幼稚園との交流を継続する取り組みも行われている。	感染症問題が長期化していることもあり、例年に行われていた利用者との踊りを披露する機会が中止になる等の影響が出ている。今後の感染症の状況をみながら、徐々にホームの取り組みが再開されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>入居者さんが地域の行事に参加し、地域の方と触れ合う事で共生している</p> <p>グループホームの防災訓練や喫茶に町内の方も参加して下さる</p> <p>福祉まつりでグループホームの啓発活動をしている(今年はコロナで中止になった)</p> <p>地域の方に関わりを通して認知症について知って頂く様にしている意見を頂き改善している</p> <p>地域の方に車椅子操作方法を教えた</p> <p>毎年地域の中学生、高校生、専門学生、大人をボランティアとして受け入れている</p> <p>地域の方に認知症を理解して頂く為に劇をした事がある</p> <p>会議などに入居者さんが混じって参加し、職員だけの意見ではなく、入居者さんの意見が反映されるように努めている</p> <p>運営推進会議や、講演会を通して伝えている</p> <p>絵手紙習字クラブは地域の方がお手伝いに来てくれる</p>		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>会議の内容は議事録にてスタッフ全員に周知され、会議の内容が活かされる様にしている、意見を元にサービス向上に努めている</p> <p>施設で起きた事を包み隠さず報告し、話し合い、良い方向に向かう様にしている</p> <p>ヒヤリハットや事故報告を活用している⇒管理者に報告している</p> <p>会議には市役所、地域の方が参加している</p> <p>会議には入居者さんも参加し、また、ご家族参加を促し、書類にてご意見も伺うようにしている</p> <p>多方面からのご意見を頂き、改善、向上に努めている</p> <p>会議は施設内の状況報告、雑談も交え、和やかな雰囲気で行われる</p> <p>会議の時は入居者さんの手作りのおやつを提供している(最近では手作りが出来ていないが、出来た時の入居者さんの表情が良い)</p> <p>運営推進会議の内容は、参加していないスタッフも分かる様に記録を閲覧している</p>	<p>会議については、感染症の状況をみながら開催の判断を行っており、可能な限り会議を開催する取り組みが行われている。会議の際には、ホームの取り組みをまとめた書類を提供しており、様々な分野の関係者にホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。また、会議を通じて市職員の出席も得られており、情報交換の機会にもつながっている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で話をしたり、ご意見を頂いたりしている 市の行事に参加する事で協力関係を築いている 市からの依頼で管理者が講演を行い、入居者さんも参加する事がある 安城市のグループホーム部会に参加している 市が開催する事業者説明会に参加している	市内の介護事業所が集まる連絡会が行われる際には、ホームからも職員が参加しており、情報交換等の機会につなげている。例年は、市で行われている行事にホームからも利用者と参加する取り組みが行われている。また、地域包括支援センターや例年は市の介護相談員との情報交換等も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回勉強会を実施し学び職員に周知している 着替え入居者さんが立ち上がると、すぐに声を掛けるのではなく少しの時間様子を見ている 身体拘束が無い様にケアをしている 玄関の施錠は夜間防犯の為以外はしていない 入居者さんの状態に目を配り、拘束をせず安全安心に努めている 抑制拘束適正委員会を行っている(月1回) 声の掛け方(言い方)に気を付ける(言葉の拘束) ベッドセンサーを使用している	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、日中はホームの玄関に施錠を行わない等、利用者の状況等に合わせた支援が行われている。また、毎月の身体拘束に関する現状確認や定期的な職員研修が行われており、職員間での振り返りの機会につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	情報収集できる集まりに積極的に参加し情報を集めている 入浴時に体の状態を観察し、事故報告書などで他スタッフと情報の共有をする こまめに身体観察を行っている ナース・管理者とも連絡を取り日中も夜間も対応できる 年1回虐待防止の勉強会を行っている 職員同士協力し合い虐待が起こらない環境づくりに努めている ヒヤリハット、事故報告書を細目に出し、虐待が見過ごされる事が無い様にしている スタッフ間の申し送りや会議にてケア方法について話し合い虐待防止に努めている 勤務評定を記入し虐待の意識や虐待を見過ごさない様にスタッフのスキル向上に努めている 対応が難しい時はスタッフが適宜交代する時間を空けて対応するなど、スタッフのケアをお互い行う様にしている 24Hシートで情報共有している より良い介助方法をスタッフ間で確認し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	判断能力が欠けている方に対しての人権を尊重しながら、判断に困る時は細目にご家族に相談するなどして関わっている 現在成年後見制度を利用している方が増えて来ている。担当の弁護士さんとの関係づくりにも努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	日頃から細目に連絡を取り信頼関係を築き交流をはかっている。 十分な説明を行っている。ご家族とご本人の不安を解消し何度も来所頂きスムーズに入居して頂ける様に支援している。 何かあれば質問しやすい環境になっている（電話LINEなど）。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などで運営状況などを公表し、またその議事録にてご家族の方に状況を周知している、それらに対してのご意見があれば、月一回のアンケートや、月一回の食事会、日々のご面会時などでご意見を伺える機会を設けている。頂いたご意見はスタッフ会議などに取り上げ、スタッフに周知している。 ケアプランに対するご要望は最低3か月に1度ご家族、入居者様にご意見を伺いケアに反映させている（看取りの時は毎月見直し） ご面会にみえた時にご意見、ご要望が伝えられるように、ご来訪カードに意見が記入できるようにしている 年に一度市役所、地域の方、ご家族を交えた食事会があり、意見が交わせる機会をつくっている 直接話しかけやすい様スタッフ間の雰囲気もよくなる努力をしている	ホームでは、感染症の状況をみながら毎月の大掃除を通じた家族との交流会を継続しており、家族との交流の機会につなげている。家族とは、LINE等を通じた連絡も行われており、様々な機会を通じて、家族からの要望等の把握につなげている。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議の前にスタッフからの意見をメールで集めている スタッフ会議、ユニット会議で意見を聞いている 意見交換ページがあり、そこを利用して意見が出せるようになっている ユニットリーダーや管理者は常にスタッフが話しやすい雰囲気や時間を設けるようしており検討し反映させる努力をしている 苦情要望報告書が有り活用している	ホームでは、毎月の職員会議の他にも日常的にも職員間で意見交換を行う時間をつくっており、職員からの意見や提案を管理者を通じてホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、ユニット毎にユニットリーダーを配置しており、定期的なリーダー会等を通じて情報交換も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議時に時間外手当が付く様になるなど、スタッフが働きやすい環境づくりを行っている。 年3回スタッフの評価(自己評価・他者評価)を行い、頑張った点など把握している。 有休が取れる。スタッフの家庭環境に応じ労働時間を配慮している。 スタッフ同士声を掛け合いながら休憩を取る記録の時間を設けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	専門学校の先生が救命の勉強会を実施している 新人研修・スタッフの勉強会を行っている 市役所が行う、法人外の研修会(和田行男先生の講演会)にも参加出来た スタッフによる勉強会を行っている リモート研修実施		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が他施設へ慰問に行ったり、グループホーム部会で他施設と交流を持ったりしている 他のグループホームと協力して勉強会を企画したりしている 他施設の行事に出掛けたり、また、他施設から行事に遊びに来たりしている(コロナの為中止中) 福祉まつりへ参加し交流をはかる(コロナの為中止中) 他施設へ入居者さんも一緒に慰問に行く(コロナの為中止中) 研修で他施設の看護師との情報交換		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に喫茶(じけいで開催される認知症カフェ)に来てもらったり、体験してもらったりして関係づくりをし、ADLを把握したりする。 入居前に居た施設、ケアマネからも情報をもらうようにしている。 これまでの人生の情報や、ご本人の想いや、ご家族の想いを聞き、関係づくりに活かしている。 ケアプランを作成する時に、ご本人とご家族の希望を聞いている。 コミュニケーションを大切に、希望に沿ったサービスが提供できるようにしている。 日常のコミュニケーションから不安な事や困った事が無いか聞き取りをしている。不安などある場合はスタッフ間で情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学に来て頂いたり、施設行事に参加をお誘いしている。 月に1回行われるご家族参加の大掃除+食事会や行事などで、スタッフから積極的に声を掛けるようにしている。 訪問時何かあればアンケートに記入できるようになっている 申し込みから入居までの期間が長い為、現状の情報把握に努めている。 ご家族から話しかけやすい雰囲気、環境づくりを心掛けている web面会や、LINEを使い写真を送るなどしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ他施設の紹介なども行っている 必要に応じ受診の対応も行っている 必要に応じ訪問マッサージや福祉用具のレンタル、購入も使用している 現状の様子を十分に観察し優先順位を見極め対応している 精神面、身体面を見ながら必要な支援に努めている 歯科往診を行っている OTの先生、マッサージの先生のアドバイスを取り入れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行う事で共に暮らしている者同士の関係を築いている その方が出来る事を活かし、活躍して頂く様にしている 日々の生活で出来ている事の継続を大切に、入居者の力で生活出来ている感謝を伝えている 普段あった事など色々な事を話題にし共に笑い、良好な関係を築く様努めている 家事を全て職員が行うのではなく、一緒に協力し合っている、感謝も伝えている 入居者の気持ちを大切に、家族の様に接している 一緒に暮らしているものとして関係を築いている 人生の先輩として接する ご家族から手作りマスクを頂いた		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回行われる大掃除にはご家族にも参加頂き、一緒になってホーム内、ご本人の居室を掃除する 父の日、母の日、敬老の日、誕生日には、ご家族と一緒に入居者さんのお祝いをする 年末に行われる忘年会には、ご家族も歌ったりして一緒にホーム行事を盛り上げてくれている 入居の契約時に、スタッフとご家族はともに入居者の生活を支えるチームであることを文章で説明している じけいでの様子を細目に伝え共有している 入居者さんに必要な事をご家族に伝えるようにしている 久しぶりにお会いするご家族とは一緒に写真を撮るようにしている スタッフとご家族が共に話し合える関係を築いている 月に一度ご家族にも一緒にホーム内を掃除して頂く機会がある 年賀状を送っている 不穩時電話したり来て頂いたりしている 担当スタッフから定期的に手紙を送り近況をお伝えしている コロナで面会が出来ない時は今まで以上にこまめに本人様の写真を家族に送り安心して頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<p>地元の方の慰問の受け入れをし、入居者さんとお会いした時話がはずんでいる</p> <p>地域のお祭りや、クラブ活動、サロンなどに出掛け、顔なじみの方々との関係が途切れない様になっている</p> <p>なるべく近所へ買い物に出かけ、顔見知りにも会える(今はコロナの為行けず)今は移動スーパーを利用中</p> <p>ホーム内で行われる行事に地域の方もお誘いし、馴染みの方が顔を出して頂ける様になっている</p> <p>馴染みの方が気軽に訪ねて来やすい開けた環境づくりに努めている</p> <p>顔馴染みにの方が訪ねてみえた時は、ゆっくりと過ごして頂ける様にお茶をお出ししています</p> <p>入居者さんが以前通っていたお店に行ったりした(今はコロナの為行けず)</p>	現状、外部の方との交流が困難な状況になっているが、利用者の中には、入居前からの関係を継続しており、身内の方にプレゼントを渡している方や行きつけの美容院を継続している方もいる。また、家族との外出についても、感染症対策をお願いしながら現状で可能な範囲で行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<p>レクリエーションは全員で行うようにしている</p> <p>全員で出掛ける行事を設けている</p> <p>個々の想いを考え、適度な距離が測れるように支援している</p> <p>食事の席など、相性なども考え配置している</p> <p>コミュニケーションが困難な方には、スタッフが間に入り孤立しない様に関りを持っている</p> <p>家事なども一緒に行う場を作るよう努めている</p> <p>入居者さんの個性を活かせる支援に努めている</p> <p>一緒に歌を歌ったり、掲示物を一緒に作ったり関わる機会をつくっている</p> <p>絵手紙、習字などに参加が困難な方たちはスタッフが介入し楽しめる</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	急にお亡くなりになって退去となった入居者さんのご家族に、じけいで過ごした写真とスタッフのメッセージを入れたDVD、アルバムをお渡しした他施設へ移った方の面会に行くこともある いつでも又来て頂ける様に声を掛け、実際訪問して下さったご家族もみえる 違う施設へ移動する事になった時はその施設へじけいででの生活の情報を提供するようにしている 入居者さんがお亡くなりになった時ご葬儀、お通夜に参加した 入居者さんのお誕生日には皆でお祝いし、他入居者さんからのお祝いの言葉を伝える 食事の席が離れている入居者さん同士もスタッフが間に入り交流の機会を作る 永眠後訪ねてみえた家族の体調を気遣う 無くなった方の荷物の片付けを手伝った		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3か月に1回は行うケアプランの見直し時期にご本人の想いを汲み取りプランに反映させている ユニット会議で対応の検討をしている 入居者さんが不安な時は家に電話したりする事もある 入居者さんの意向をお聞きする、それが困難な方は、ご家族を交えて意向を推察する 日々の暮らしの中から意向を汲み取る努力をしている 普段からの会話で思いを引き出せる様な投げかけをしている 体調変化、入院後は見直しを行う 新規入居の際も好みの食事で喜んで頂けた	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者に関する意向等の把握が行われており、職員間で日常的に情報の共有が行われている。また、毎月のカンファレンスが行われており、利用者や家族の意向等の検討を行いながら、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	慣れ親しんだものを使用するなどしている 入居時にご本人やご家族に生活歴などお聞きし、ファイルにしたものをスタッフで共有し把握に努めている 前に過ごした施設からも情報をもらう コミュニケーションからやっていた事、やりたい事、出来る事を把握している 大掃除など、ご家族と関わる際には昔の話をお聞きするようにしている 好みの音楽を流したり好きな楽器に触れる時間を作っている DVDで映画鑑賞 好みの食事を聞き特別メニューの日を設ける		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シート→iPadを活用しスタッフ間で情報共有、把握に努めている。 スタッフのシフトが変わる毎に引継ぎの申し送りをし、継続して観察が出来るようにしている 無理のない中で、やれることはやって頂いたり、いつもと様子が違うと感じた時はバイタル測定し休んで頂いたりする ミーティング、会議などで、スタッフ1人1人が持っている情報を出し合い、多面的に状態を見るようにしている 月に一度担当スタッフがアセスメント用紙の見直し、更新を行っている 一人一人の生活リズムに合わせ、必要な方には居室で休む時間を作っている 新しく入居の方は情報ページでスタッフ間情報共有		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回以上ケアプランを見直す機会をつくり、ご本人、ご家族、介護スタッフ、介護支援専門員、看護師、場合によっては担当医師や関連学校の専門職などからの意見も取り入れながら介護計画を作成している。	介護計画については、3か月で見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。日常的にも介護計画に関するチェック表に記録を残し名が変化等の把握を行い、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子やスタッフの気付きを24時間シート→iPadに記入し情報を共有している ケアプランのサービス内容が漏れなく行われる様24時間シート→ケアプランチェック表で実施がチェックできるようになっている 日々の記録を活用し、スタッフ会議時ケアプランの見直しを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族への連絡手段にLINEを導入し、日々の生活の様子などを写真や動画付きでお知らせする事が出来ている 入居者さんの食べたい、見たい、行きたいのニーズに合わせた外出を多く計画している ボランティアによる喫茶店のコーヒー、様々な芸能慰問など、楽しんで頂けるサービスを計画している(コロナで活動が減っている) 子供が好きな方のニーズにお応えできる幼稚園児、保育園児の訪問がある 歌、踊りが好きな方や、習字など作品作りが好きな方が主役となって発表できる場を作っている 訪問マッサージを使う方もみえる 必要に応じ協力病院以外の病院受診や、買い物、理髪 入居者さんから発せられる、漬物を漬けたい、スイカが食べたい等のニーズを出来る限り叶えられるように日々努力している 少しの時間でも一人づつや少人数で関わる時間を作る 少しでもぼーっとする時間を減らし外に出たり体操したりアクティブにしている コロナの為買い物に行けないので移動スーパーを利用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のお祭りや餅つきサロンなどの行事、クラブ活動や避難訓練などに多く参加し豊かな暮らし、安全な暮らしが出来るように地域資源を活用している 地域の学生ボランティアなどに行事や外出など手伝ってもらっている ご近所の方で施設行事にお手伝いに来て下さる方もみえる 今まで暮らしていた場所で支えてくれていたご近所さんとの関係を、入居後も引き続き大切にしている 月に一度ご家族にも一緒にホーム内を掃除して頂く機会がある 気軽に訪問しやすい雰囲気づくりに心掛けている 関連学校の学祭に訪問したり作品展に参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力病院だけでなく、ご本人、ご家族が希望した病院の医療が受けられるようにしている 月に一回以上協力病院の医師の往診があり、細目に情報共有している 診察の結果はご家族に報告し、お薬や治療の方針などはご本人、ご家族に相談しながら決めている ご家族が受診にお連れするときは、入居者様の日々の様子が医師に伝わるよう、情報提供をしている ご本人ご家族のご希望に沿う支援をしている 訪問歯科の利用	ホームでは、協力医との定期的及び随時の医療面での連携が行われており、現状、全員の方が協力医をかかりつけ医としている。受診については、家族による支援の他にも、状況等にも合わせたホーム職員による対応も行われており、健康状態等に合わせた支援につなげている。また、ホームに常勤の看護師が勤務しており、協力医との連携や医療面での支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	細かい所まで情報共有し、報告、連絡、相談している 看護師の勤務は24時間オンコール勤務となっている 看護師による勉強会も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も出来るだけ多く病室に足を運びご本人や、病院のスタッフと話し情報交換を行っている(コロナの為お見舞いは中止) 入院時入院先にすぐ情報がお渡し出来る様に書類を整えている 退院時は病院から貰うサマリーを全職員が見て情報を共有している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の有り方については、入居時にご本人、ご家族の意向を確認して、その意向に沿える様にしている。また、いざその時が近付いた時には再度話し合いの場を設けるようにし、その時その時の意向を確認するようにしている 重度化、看取りが近付いた時は、医師からの説明をご家族だけでなく、スタッフも聞き、事業所もご家族と一緒にやって対応に取り組むようにしている 終末期ケアについて、勉強会を実施し、その時期が訪れた時対応できるように備えている 今年度は看取りがあった訪問看護の利用、必要に応じ酸素吸入、巡回を増やす 入居者もお通夜に参加し家族のように見送る 週末ケアの終了後反省会を行い今後のケア向上につなげる	身体状態が重い方もホームでの生活を継続することができるように支援が行われており、利用者の中にはホームで最期を迎えた方もあり、協力医や看護師とも連携した看取り支援が行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ねながら、次の生活場所への移行も含めた支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使い方、救急法、蘇生法の勉強会を実施している 怪我や、急変の対応が出来るよう、看護師による勉強会を実施している 急変時のマニュアルがある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回以上実施している 町内の避難訓練にも参加している 地域の方がじけいの避難訓練に参加して下さっていて、その都度改善の為のご意見を頂き改善を計っている 災害時地域の方と助け合いが出来るよう覚書所が作られている 非常食など貯えが用意され、メンテナンスもされている 発電機を導入し災害に備えている	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等が行われている。感染症問題が続いていることで地域の方との連携が困難になっているが、現状で可能な協力関係の取り組みが行われている。また、新たな取り組みとして発電機の設置が行われており、停電時への対策も行われている。	災害対策に関するホームの様々な取り組みが行われているが、感染症問題があることで、例年のような取り組みが困難になっている状況でもある。今後の感染症の状況をみながら、ホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人がやる気になる声掛けを行い、なるべく本人の力が出せるように支援している。 前向きな声掛けをするようにしている。 排泄など、人前で大きな声で声掛けをしない様になっている プライバシーを守っている 常に入居者さんの立場に立ち支援を心掛けている 尊敬の念を持ち接している 一人一人の生活歴、性格に合わせた支援を行っている 尊厳を保持しケアしている 今から何をするか必ず伝え、不安の無い様にしている	職員が利用者を尊重した対応を行うことができるように、日常の支援を通じた管理者からの注意喚起等の取り組みが行われている。 利用者への言葉遣い等についても、職員間で利用者に合わせて対応を行うように検討が行われている。また、職員の接遇にもつながる研修が行われており、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で想いを表現しにくい時は、選択してもらったり、質問の仕方を工夫したりしながら本人の自己決定を促している ケアプラン見直し時期に必ず本人の希望を聞き、希望が叶えられるようにしている 買い物時はなるべく品物を選んでもらうようにしている(移動販売利用) 意思疎通が困難な方には、表情などから意思を汲み取るようにしている すぐに介助の手を出すのではなく、まずは、したい事を見守るようにしている 希望を言い出しやすい環境、雰囲気作りをしている 意思疎通困難な方は以前の好みを把握		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間などは、本人から「もう少し後で」と希望があれば、それに沿うようにしている その日その時の状況に合わせ、臨機応変に対応している(一人で自室で過ごしたい時は尊重している) その日の体調になるべく合わせ支援している 食事のペースもなるべく個々に合わせている やりたい事食べたい物などを聞き支援している 今の体調を考慮しリズムが乱れ無い様に支援		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に服を選んだり、ネイルやお化粧品など、希望に沿って支援している ファッションショーに出演した方もみえる 行事、外出時は時に身だしなみに気を付けている 本人の希望や季節感を大切にしている 訪問美容を利用して、ヘアカット、毛染め、顔そりなど、本人希望のカットをしている 馴染みの美容院にご家族ご協力で行く方もみえる 季節に合う服装が出来るよう本人の気持ちが乱れないようそれとなくアドバイスする		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度、ご家族を交えた食事の機会がある。 季節感を感じられる食事、行事食、外食などの機会もある 毎日の食事は、皆で一緒に頂きますをし、スタッフも一緒に会話しながら食べている 入居者さんの出来るお手伝いを促し、楽しみながら食事作りを行っている。 出来る方には能力に合わせて食事作りや洗い物をしてもらっている 食材の買い物も入居者さんが行き、選んでくる 個々に合った食事形態で食事提供している レクリエーションで希望に沿ったおやつと一緒に作って提供している おせちを作る	メニューについては、食材業者のメニューを基本に調理が行われているが、利用者の好みや嗜好等に合わせたメニューの配慮も行われている。利用者も調理や片付け等のできることに参加する機会をつくっている。季節等に合わせた食事の提供やおやつ作り等も行われている。また、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を24時間シート→iPadに記入し、必要な量摂取出来ているか把握している その方に合わせた食事形態(刻み、トロミ、ミキサー)で食事を提供している 水分量が少ない方には好みの飲み物をお出したり、細目に水分補給を行ったりしている(水分ゼリー) 関連学校の栄養士さんに料理を見てもらいアドバイスをもらったりする ダイエットの為にマンナンヒカリを使用した食べにくくなった方には自助具を用意したりしている 体重測定を行い、BMIの計算を行っている 栄養が必要な方にエンシュア、ラコールなど使用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時＋毎食後歯磨きを実施している 本人が出来る所まで見守り、出来ない所は支援している 必要時歯科受診している 状態に合わせてスポンジブラシや歯磨きティッシュ、歯間ブラシを使ってみえる方もいる 入れ歯は夜間ポリドントにつける 訪問歯科の利用（医師から口腔ケアのアドバイス・勉強会）		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シート→iPadに排泄の状況を記入する事で排泄パターンを知り、失敗の軽減や、トイレでの排泄に役立っている 排泄のシグナル(ソワソワしたりうなっていたり)を見逃さない様にしている 立位困難になって来ている方、車椅子の方でもトイレに座り、トイレでの排泄を促す様にしている(必要時2人介助) 利尿剤により尿量が増えた場合も、声掛けの回数を増やすパッドの見直しなどして対応している 排便状況の把握 医師へ相談し薬の調節	利用者全員の排泄記録を残し、職員間で日常的に情報交換を行いながら、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に考えながら、利用者の状況等にも合わせた職員2名での支援等、職員間で排泄に関する支援内容の検討が行われている。また、医師、看護師との排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促す為、毎朝のヨーグルトや、牛乳、しっかり水分を摂って頂く様にしている 必要に応じ腹部マッサージを行う 体を動かす時間を作っている 医師に相談し、その方に合った便秘薬を処方して頂いている 便秘の勉強会を実施した(薬、排便介助) 便座に少し長めに、しっかり座って頂く 看護師による摘便		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつ入浴したいかを聞き合わせている方もいる 歌を歌ったりして楽しんで頂く様にしている 入浴の声掛けを工夫している 浴室にてフットマッサージをする事もある 無理なく、身体状況に合った入浴が出来るよう、リフトや滑り止めマット、シャワーチェア、シャワーキャリーなど使用している 出来る事を見極め過度な介助はしない 冬、足浴をしながら洗身を行う 拒否がある時は時間を置き、楽しい話をしたりする 空調を利用し脱衣歯、浴室内を快適な環境にする ここに湯温を調節	利用者が週3回の入浴ができるように支援が行われており、時間も午前と午後に対応しており、入浴を拒む方にも声かけを行いながら、利用者の状況等に合わせた支援が行われている。浴室内に天井走行型のリフトの設置が行われていることで、利用者の身体状態に合わせた入浴支援が行われている。また、季節等に合わせた入浴の取り組みも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力に合わせて、昼寝の時間をつくったりしている 体調や希望に応じて対応している 加湿器やエアコンで快適な環境管理している 個々の習慣に合わせて休んで頂いている 寝具の清潔に心掛けている 眠れない時には話をし、穏やかに寝て頂ける様にしている お気に入りの人形と一緒に寝ている人も居る 希望にあわせ湯たんぽ使用など		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬の説明書がいつでも見れるようにファイルにしてある 薬の変更も一覧表を变化の度更新し確認出来ている 症状の変化があれば24時間シートにiPad記録し、申し送られるようになっている 薬のセットは間違いが無い様必ず二人で行い、服薬支援もダブルチェックを行い、投薬ミスが無い様にしている 勉強会開催 錠剤が苦手な方は薬を変更したりヨーグルトやゼリーに混ぜる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<p>レクの時間を作っている 踊りや歌の発表会、お祭りのステージに出演する事があり、晴れ舞台に向けて練習したりする(今年はコロナで開催できず) 絵手紙(年賀状)、習字のクラブがあり、そこでの作品が町内の作品展に展示される為、皆さん頑張って作品を作っている 入居者さんが障がい者施設へ慰問に行く。自身の存在が障がい者の喜びになっている事が張り合いになってくれたらと思う。 外出行事が多く、皆さんの楽しみになっている。 お茶嫌いな方には違う飲み物を出している 食べたい物の希望がある時はケアプランに取り上げ、作ったり、買ったり、外食したりして希望を叶えるようにしている 花を育てたり、好きなテレビを録画したり、歌を取り入れたりしている 昔の特技や趣味があれば、レクに取り入れたりしている(編み物の先生が来る) ご家族から特技や趣味などの情報を聞けるようにしている 門松を入居者さんと一緒に作っている 今年は花火大会を開催した 好みの歌やクラシックを流しリラックスして頂く YouTubeで好みの歌を聴く</p>		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<p>夜の時間帯でも花火やイルミネーションに出掛けている その日天気が良いから出掛けたいという希望に沿って散歩に出掛けたりした 墓参りに行きたいと希望されていた方が家族と一緒に一日がかりで墓参りに出掛けた社協から車椅子の乗れる車を借りたりして外出を実現させている 本人希望の場所や外食に出掛けている 柿が成る時期には柿狩りに出掛けたりした 日常的にゴミ捨てや散歩など、外の空気を吸う機会をつくっている 外で桜を見ながら食事会 看取りの方が思い出の場所に行けるように支援した</p>	<p>感染症問題が続いていることで、利用者の外出が困難になっているが、ホームの近隣を散歩したり、ホームの向かいにある神社の清掃活動を行う取り組みが行われている。季節等に合わせた花見やドライブに出かける取り組みも行われている。また、感染症対策を行いながら広い場所を借りた食事会の取り組みも行われている。</p>	<p>外出に関する取り組みについても、感染症対策を行いながら外出の活動を継続する取り組みが行われている。感染症問題が長期化する中で、外出支援に関する継続的な取り組みに期待したい。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身が持つお金で好きな本を買ってみえる方もいる 買い物の際はなるべく入居者さんにお支払いをしてもらう 買い物の際は値段を見て金額の話をしたりします 普段は金庫にしまっているが、本人に買いたいものがある時は個人のお財布を出し購入する		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	地域の方々や、ご家族に入居者さんが年賀状を出している 電話を希望される方は施設の電話を使い電話をかけている 10年後に届く手紙を書いた		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に花を飾っている アルコール消毒もある 天窓があり室内が明るくなっている 加湿器空気清浄機エアコン照明など調節している 季節を感じる絵手紙や習字の作品や、最近撮った写真などを飾っている 浴室、リビングには床暖が設置してある 浴室からは箱庭が見えて、温泉気分が味わえる 訪問者の検温 トイレは一日数回掃除する日もある リビングには日が良く入る 日光浴で骨の強化を目指している 換気に心掛けている(コロナ・感染症対策) 各洗面所にアルコール・次亜塩素酸を置き感染症対策 季節に合う壁面飾り	ホーム内は広めの空間が確保されていることで、利用が日中の生活を通じて圧迫感を感じないような生活環境がつけられている。ホームの庭には、畑や花壇が整備されており、関連の幼稚園の園児との交流の機会にもつながっている。また、リビングの壁面には利用者の作品や写真等の掲示が行われており、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	休みたい時に居室で休んだり、リビングで気の合う人と話をしたりする事が出来る 食事の席以外にもソファや椅子があり自由に使っている 食事の席は、相性を考え席の工夫をしている 入居者さんの状況に合わせて時々家具の配置換えを行っている 好きな音楽が聴ける様自室にラジカセが有る方もみえる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人が使ってみえた馴染みの家具があり、ご家族、ご本人が選んだカーテンが付いている、また、ご家族と撮った写真や、行事の写真などを飾ってみえる方もみえる お人形やお仏壇や遺影を持ち込まれて見える方もいる 好きな動物の写真を飾ってみえる方も居る	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類や好みの物等が持ち込まれており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、居室には畳が敷かれてあることで和風の雰囲気がつくられており、ベッド以外での生活にも違和感を感じないような配慮にもつながっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングの時計は入居者さんが見やすい位置に設置してある 大きな日めくりがある トイレに立ち上がりやすい様手すりがある 廊下に棚兼手すりがある 廊下の途中には休めるベンチが設けてある 一人一人の部屋、共用の便所には表札がある トイレの流し忘れ防止の為に【トイレをしたら流す】の張り紙がある 洗面の位置が、車いすでも手の届く位置にある 施設⇒家、自宅を感じられる構造やインテリアになっている 安全の為にベッドセンサーを使用してみえる方もいる 個々に合わせた椅子を使用して頂く様にしている 洗面所に椅子が用意してある所もある 椅子、車椅子の手すり、食事のテーブル、フットレストに保護材を貼り怪我防止 手押し車の使用		